

政務活動報告書

令和6年8月21日

〔会派名：喜働〕

代表者氏名	川合 滋 印	記録者氏名	幸松 孝太郎 印
研修者氏名	幸松 孝太郎		
研 修 日	令和6年8月19日（月） 13：00～17：00		
研 修 先	福井県国際交流会館 多目的ホール オンライン		
目 的	わが国の地方行政は、昨今の人口減少の変化、デジタル化の変化、住民のライフスタイルや価値観の多様化、公共私連携による地域社会の新たな動き、様々な人権に配慮した多様性の尊重など、これまでにない様々な課題に対応することが求められている。議会議員として、このような背景を踏まえ政策形成能力等の向上を図ることを目的とする。		

研修概要

（１）開催要領 主催：一般社団法人 地方自治研究機構
令和6年度自治振興セミナー 福井会場 約300名参加（YouTube 配信）

（２）３人の講演者のアジェンダ

1. 日本と地域の未来を創るデジタル変革 講師：内閣府クールジャパン
陣内 裕樹 地域プロデューサー

＜講演の４つのポイント＞

- ・教育dXからはじめる全庁・地域dXが重要
- ・デジタル変革（dX）は“トラ”、デジタル化“タイ”は目指さない
- ・3：6：1の法則＝作る：届ける：計測する
- ・デジタル／変革のカギは、管理職の“自分ごと”から

2. 女性が輝く地域づくり 講師：昭和女子大学 坂東 眞理子 学長

＜講演の６つのポイント＞

- ・地域の魅力
- ・愛されている日本
- ・地方の役割
- ・地方はどう生きるか
- ・地域を活かす主役の育成①
- ・地域を活かす主役の育成②

3. 前向きな人材の育て方と職場づくり 九州ビジネススクール講師 碓 邦生氏

＜講演の４つのポイント＞

- ・「人材育成に関する」問題意識の整理
- ・長期的な目線でみたときの志を維持する組織の作り方「自治体としての文化を創る」
- ・明日からの仕事を熱意をもって取り組むためのセオリー「ジョブ・クラフティング理論」



(3) 今研修の所感

今回の「令和6年度 自治振興セミナー」にオンラインで参加しました。地方公共団体の職員および議会議員の政策形成能力、法務能力の向上を図ることを目的として、都道府県と一般財団法人地方自治研究機構が共同して実施しているセミナーで、およそ300人が会場およびオンラインで集いました。

3人のセミナーでは、「dX」「女性」「人材」の3テーマのもと、各分野の第一人者の講演が行われ、各地域～日本～国際社会の状況と動向や、課題解決に向かっているアプローチなど含蓄のあるお話をたくさん伺うことができました。(dXの小文字dは、陣内氏の解釈)

最初のテーマでは、陣内講師が全国の自治体で職員研修の中で掴んだ4つのポイントから「幹部職員の正しいdX理解と自分ごと化が重要である」ことを分かりやすく説明をしていただきました。DXとは何か”トラ”(デジタル とらnsフォーメーション=虎を捕まえるには?改革を意識する)をめざし“タイ”(デジたいゼーション=紙からデジタルへの置き換え)は目指さないとか。GIGAスクール構想で取り組んでいる1人1台のタブレットを活用した学校のデジタル化は、世界でも日本だけであり、この進め方により、教育dXが庁内で一番進んでいるので、ここからdXを考えることが重要であるとのメッセージに目から鱗が落ちました。

ともかく、参加されている職員に対して“一度私を職員研修に呼んでほしい!”と中々進まないdXの状況からの切なる願いには、参加している議員もあきらめてはいけない“言い続けなくてはならない”としっかり心に刻みつけて忘れないようにと考えることができた講演であった。

次のテーマである坂東講師の「女性が輝く地域づくり」では、まず地域の魅力はストーリーが一番大事であること。地方の役割では、人材不足は女性の活用や高齢者の活用、よそ者、バカ者の活用など、ぬくぬく型・くたくた型でなくいきいき型、可能性を抑圧しないことが重要であること。そして、地方はどう生きるかでは、支えあい強化し、売り物にして、社会設備資本の強化を図ってほしい。それには、新しいサービスとして、行政のスリム化、コンビニとの連携、生活ステーション、ワンストップサービスなどのそれぞれの中でリーダーが必要なこと。最後に、地域を活かす主役である「女性の活躍」のポイントは、3つあり、知識・スキル、教育・学習における「パワーアップ」、いい子からリーダーへ「マインドセットを変える」、ネットワークとしての「女性リーダーの育成」であること。主役である高齢者の「シルバーの活躍」としては、①リスキング、②マインドセットを変える、③コミュニケーション能力を育成する、④新しい働き方、⑤高レベルなど、女性や高齢者への課題提起に勇気が湧いてくるお話であった。

3つ目のテーマである碓講師の「前向きな人材の育て方と職場づくり」では、最初に人材育成に関する3つの現代的な課題として①求められるスキルの高度化と陳腐化の早さ、②人手不足による人材育成の価値上昇、③定着しない&管理職になりたがらない若手社員について問題意識の整理を行なった。この整理には、第27回CEO意識調査を基に世界全体から見た日本の状況を明快に説明してくれた。その中では、現在のビジネスのやり方を変えなかった場合、どのくらい存続できるかの問いでは、世界全体の場合5割以上に対し日本は64%が生きられないとシビアに答えており、解っているけど出来ない状況が読み取れる。

終わりに、人材育成のポイントとして、印象的な話を紹介しておきたい。親から“宿題をきなさい!”とか、上司から“この仕事をきなさい!”とか言われた仕事に、人はモチベーションが湧かないのである。与えられた仕事でも、どういう意義があるかをよく考えることで、今あるものを自分で意味のあるものに変えることで、モチベーションが湧くのである。若手社員の育成は、早ければ早いほど効果が期待できることや、自治体としての文化を創る事例など、熱意をもって働くための組織文化の醸成のヒントにつながる非常に示唆に富んだ内容であった。今後の自治振興に活かせるように考えることができた有意義な議会活動の研修であった。

以上